

科目名	都市の地理学	単位数	2	授業形態	講義	担当 教員	大場 茂明（文）
英語表記	Geography of Urban Area						

● 科目の主題

現在、世界人口の過半数、先進工業国では国民の三分の二以上が都市に居住している。古代にメソポタミアで誕生して以来、都市の歴史は長いが、現代こそまさに「都市の時代」であるといえよう。また、都市は人々の日常生活や産業活動の舞台であると同時に、過密、環境汚染など様々な問題が集積している場所でもある。

そこで本講義では、自然・人文の諸現象が相互にむすびついて展開する地表面の空間的な構造を研究する地理学の立場から、都市の形態、機能、構造について国内外の具体的事例を提示しつつ概説する。

● 授業の到達目標

この講義では、地理学のアプローチを通じて、近年の都市問題や今後のまちづくりの課題について考え、激動する現代社会の諸問題を理解するための術(すべ)を身につけてもらうことを目標とする。

● 授業内容・授業計画

授業では、以下の項目にしたがって、写真や映像資料などを用いて国内外の具体的な素材を提示しつつ講述する(数字は授業回数)。

- ① 序：地理学では都市をどう捉えるか？
- ②～④ 都市の形成過程
- ⑤・⑥ 都市機能分化と空間構造の変容
- ⑦・⑧ 日本の都市
- ⑨・⑩ 現代社会と都市問題

⑪・⑫ 都市更新事業とまちづくり

⑬・⑭ 人口減少と都市の縮退

⑮ まとめと今後の展望：都市の未来像

● 事前・事後学習の内容

各回授業終了時に、次回の講義内容を予告するとともに、主要項目を3～4個のキーワードで示す。必ず事前にそれらの内容を確認し、授業に臨むこと。また、授業のはじめに、前回提出されたコミュニケーション・カードに基づき質疑応答を行い、前回講義内容についての理解を深める(15～20分間程度)。したがって、授業終了後には、各自講義の要点を整理するなど、復習を欠かさないようにすること。

● 評価方法

評価は、毎回の授業終了時に当日の講義内容に対する疑問点などを自由に記入してもらうコミュニケーション・カードによる平常点(20%)と、定期試験の点数(80%)によって行う。

● 受講生へのコメント

授業では、理論や概念のみを取り上げるのではなく、具体例に則して進めていく。したがって、高校時代に地理を履修していたかどうかは問わないし、特別な予備知識も必要としない。専門用語については、その都度解説や補足説明を加えていくので、授業に集中して臨んでほしい。

● 教材

教科書：使用しない(各回授業時に、レジュメと資料を配布する)。

参考書：必要に応じて、授業時に紹介する。